

令和 8 年度

美 術

〔問 1〕～〔問 4〕の解答はすべて美術解答用紙に記入
すること。〔問 5〕は、画用紙にスケッチすること。

この試験問題は持ち帰ることができます。

なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

（長野県教育委員会）

受験 番号						氏 名	
----------	--	--	--	--	--	--------	--

(美 1)

〔問1〕 「中学校学習指導要領」(平成29年3月) 第2章 第6節 美術 に即して、次の(あ)～(お)に当てはまる語句を書きなさい。

第2 各学年の目標及び内容 〔第2学年及び第3学年〕

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を(あ)し、(い)に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と(い)な工夫、(う)と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて(え)・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) (お)に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

〔問2〕 木を加工して生活に用いる作品を制作する中学校第2学年の表現と鑑賞の関連を考えた題材を構想した。次の問いに答えなさい。

- (1) 題材を始めるに当たり、指導計画の作成と内容の取扱いにも配慮した。「中学校学習指導要領」(平成29年3月) 第2章 第6節 美術 に即して、次の(あ)～(か)に当てはまる語句を書きなさい。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1

- (5) 第2の内容の「B鑑賞」の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、(あ)かつ(い)な授業時数を確保すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1

- (6) (う)のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる(え)に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2

- (4) 各活動において、互いの(お)や(か)などを認め尊重し合うようにすること。

- (2) 素材とする木材の種類によって、かたさや色、木目などが異なることを基に、使いたい木材の種類を生徒が選べるようにした。

下の語群1にある3種類の木材の中で、一番かたい木材として最も適切なものを選び、記号を書きなさい。

〔語群1： A ヒノキ B カツラ C ケヤキ 〕

- (3) 木材を糸のこぎりで切ったり、木工やすりで削ったりして外形を整えた後、表面を磨くために400番、150番、80番の3種類の番手の紙やすりを用意した。表面を滑らかにするために紙やすりを段階的に使用していく上で、まず使用する番手として最も適切なものを3種類の紙やすりから選び、番手の数字を書きなさい。
- (4) 作品の表面を彫刻刀で彫って装飾する技法について理解を深める場面を構想した。下の彫りの種類1、彫りの種類2に示された彫りの種類の名称として最も適切なものを下の語群2からそれぞれ選び、記号を書きなさい。

彫りの種類1



断面図

切り出しで中央に仕切り(切り込み)を入れる。平刀や丸刀で、仕切りに向かって両側から斜めに彫る。

彫りの種類2



断面図

仕切り線に対して、片面を削るようになだらかに彫り下げる。または浮き彫りでできた形の中央の山を丸く削る。

〔語群2： A 線彫り B 薬研彫り C 面取り D かまぼこ彫り E 石目彫り 〕

〔問3〕 中学校第1学年において、風景画の題材を構想した。次の問いに答えなさい。

- (1) 水彩絵の具を用いて制作しようと考えた。小学校図画工作科の学習からの連続性を考慮しつつ、各種技法を効果的に働かせていく生徒の姿を願い、水彩画の技法を下の表のようにまとめた。表内の（あ）～（え）に当てはまる語句を下の語群1からそれぞれ選び、記号を書きなさい。

技法	技法の説明
（あ）	絵の具を塗った後に、水を含ませた筆でなぞって色をなじませる。
（い）	画面に絵の具や水をあらかじめ塗っておき、乾かないうちに別の色をのせる。
（う）	乾いた筆に、水の量が少ない絵の具をつけ、かすれたタッチで描く。
（え）	絵の具を塗ったところを、水を含んだ筆で軽くこすり、ティッシュペーパーで絵の具を吸い取る。

〔語群1： A 洗い出し B ドライブラシ C ウェットブラシ D ぼかし E にじみ
F 混色 G 点描 H グラデーション〕

- (2) 右の作品を鑑賞する場面を構想した。次の問いに答えなさい。

- ① 右の作品は、1840年にフランスで生まれた画家の作品である。この作品を描いた作者名を書きなさい。
- ② 右の作品の作者をはじめ、光により刻々と変化する自然をとらえ、微妙な色合いで表現していった画家たちを何というか、下の語群2から1つ選び、記号を書きなさい。

〔語群2： A 野獣派 B 印象派 C ナビ派 D 素朴派〕

- ③ 右の作品は同じモチーフによる「連作」の1枚である。

同様に、この作者が「連作」として描いた作品を、下の語群3から1つ選び、記号を書きなさい。

〔語群3： A 印象・日の出 B 小舟 C 積みわら
D アルジャントウイユのひなげし〕

作品
「ルーアン大聖堂(茶色のハーモニー)」

オルセー美術館 蔵

- (3) 発想や構想に関する指導に当たり、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」（平成29年7月）を確認した。第1学年の 内容 A表現(1)ア(ア) に記載されている内容として、下のお～このうち、正しいものには○を、誤っているものには×を、それぞれ書きなさい。

- お 豊かに想像するためには、イメージする力が重要であり、イメージの基になるものは過去の内的及び外的な経験である。しかしながら、単に経験をすればイメージが豊かになるものではない。
- か 感じたことや思いなど、主題とまではいえないものから構想を練ることも考えられる。
- き 生徒の実態や学習経験などを踏まえて、題材の設定を工夫する必要はない。
- く 主題をより効果的に表現していくためには、対象の形や色彩を全体と部分との関係で見ることや、形や色彩の大きさや配置の変化などを捉えるなどして創造的な構成を考えることが大切である。
- け 形や色彩を全体と部分との関係で捉えさせるなど、空間や余白などを生かした効果的な構成・構図や配色などの創造的な画面づくりへの配慮が必要である。
- こ 色彩の表し方については、既成の概念や常識的な色の表現にとらわれることなく、自分の目と心で深く観察し、固有の彩りの特徴を捉え、感じた色などを素直に表すことが大切である。

〔問4〕 受け継がれていく日本美術について鑑賞する授業を構想した。次の問いに答えなさい。

(1) 作品1～作品3について、次の問いに答えなさい。

① 作品1～作品3の作者らに代表される装飾的な様式の流派を何と呼ぶか。漢字で書きなさい。

② 作品1～作品3のうちの1つが17世紀に制作された。残り2つの作品は、先に制作された作品に倣って後の時代に制作されたものであることを生徒に伝え、どういった表現が受け継がれたり変更されたりしているかについて友と考え合う場面を構想した。

3つの作品について、制作された年代が古い順に番号を書きなさい。

③ 作品1～作品3の作風の受け継がれ方について、狩野派と比較しながら理解を深める場面を構想した。

この流派は、狩野派などのように親から子、師から弟子へと技術などを直接に受け継ぐのではなく、先人の作品に傾倒した人々が自主的に模倣する中で継承、発展した。

こういった作風の受け継がれ方を何というか、下の語群1から1つ選び、記号を書きなさい。

〔語群1： A 画壇 B 憑依 C 私淑 D 師事 〕

(2) 作品4は、この流派の作品のなかで、国宝に指定されているものの1つである。

花の表現の単純化について、実際の花の写真をインターネットで調べ、作品の花と写真の花とを見比べる鑑賞場面を構想した。

作品4で描かれている花の名前を下の語群2から1つ選び、記号を書きなさい。

〔語群2： A 石楠花 B 黒百合 C 燕子花 D 紫陽花 〕

(3) 先の時代に描かれた風神雷神図屏風の裏に、風神・雷神と呼応するようにある作品が描かれていたことを生徒に伝え、風神・雷神と呼応するように自分ならどんな作品を描くか考え合う場面を構想した。風神・雷神に呼応させるように実際に描かれていた作品を、下の作品5～作品7の中から選び、作品の番号と作品名をそれぞれ書き、作者名を下の語群3から1つ選び、記号を書きなさい。

作品1 「風神雷神図屏風」 酒井抱一

出光美術館 蔵

作品2 「風神雷神図屏風」 尾形光琳

東京国立博物館 蔵

作品3 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達

建仁寺 蔵 京都国立博物館 寄託

作品4

根津美術館 蔵

作品5

作品6

作品7

東京国立博物館 蔵

宮内庁三の丸尚蔵館 蔵

MOA美術館 蔵

〔語群3： A 尾形光琳 B 酒井抱一 C 鈴木其一 D 俵屋宗達 E 伊藤若冲 〕

〔問5〕 配られた2種類のモチーフを組み合わせ構成し、それぞれの質感をとらえて、鉛筆で画用紙にスケッチしなさい。